



- 2 エッセイ／“おかね”を語る  
大友良英 音楽家 ミュージシャンの経済学



- 4 インタビュー／扉を開く  
河岡義裕 東京大学医科学研究所教授 感染症国際研究センター長  
感染症ウイルスから人類を救う



- 9 地域の底力——石川県金沢市  
伝統と革新の新たな調和を求めて

- 16 対談／守・破・創  
鳥原光憲 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 会長・日本パラリンピック委員会 会長  
東京ガス株式会社 相談役  
石田浩二 日本銀行政策委員会 審議委員  
東京パラリンピックが目指す活力ある共生社会



- 20 お金の源——素材の歴史と作り方②  
銀貨 村上 隆 京都美術工芸大学教授

- 24 FOCUS → BOJ 15 調査統計局「地域経済調査課」の仕事  
地域経済の「現場の声」を収集分析する「さくらレポート」

日本銀行のレポートから

- 28 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2015年4月—  
32 「金融システムレポート」—2015年4月—



- 36 トピックス  
PFI・PPPに関する地域ワークショップを開催 ほか

- 39 AIR MAIL from Beijing  
爆増する中国のネットショッピング

## 表紙のことば

日本銀行名古屋支店は、日本銀行の第六番目の支店として、明治三十年（一八九七）三月に開設されました。表紙の現店舗は、六代目です。

戦前には、辰野金吾の設計した二代目店舗が栄にありましたが、残念ながら、戦災で焼失してしまいました。

現在の地に支店が最初に建ったのは、昭和二十四年（一九四九）、四代目の時です。四代目は、戦後の物資不足の中、木造二階建てでした。その後、戦後の中京圏経済の急激な発展で事務量が拡大して手狭になったことや老朽化もあり、仮店舗の五代目を経て、昭和三十九年（一九六四）、同じ地に六代目が建てられました。もともと、中京圏経済は、六代目が建てられた後もさらに発展し、支店の事務量もさらに増大したことから、昭和五十五年（一九八〇）に増築され、現在見られる姿となりました。

ひときわ目を引く六代目の白い外装は、茨城県の稲田石（花崗岩）であり、東京の日本橋や日本銀行本店の新館にも利用されています。今後も中京圏経済の発展と共に、白亜の名古屋支店は歩んでいきます。



表紙・画 北村公司